

五中の春の野草たち ～ 力の庭は、野草たちの楽園 ～

4 月中旬になると、気温も 20℃ を超える日が続き、春の野草たちも、ぐんぐん伸びて元気に育っています。今年は、はや 5 月下旬なみの高温の日も多く、早春に、いち早く咲いた「低めの気温が好きなタイプ」の野草たちは、日の当たる場所からはそろそろ姿を消してしまいそうです。

先日、1 年生が理科の観察授業で、学校敷地内の「野草調査」を行っていました。日当たりの良い校庭の周りや、校舎に守られた中庭の野原、木たちの木陰など、変化に富んだ環境があります。そして学校周辺も、畑や雑木林、側道、住宅地、空き地など、環境のバリエーションが豊富で、いろいろ植物たちが、それぞれの好みの環境で育っているようです。

春に出会った野草たちを紹介します。

ヒメオドリコソウ シソ目シソ科オドリコソウ属



明治時代に日本に入ってきた帰化植物で、小さな紫色の花が、輪になって踊る踊り子たちのように、茎の上部に付く様子から名づけられた名称で、在来集のオドリコソウの半分くらいの大きさなので、小さいことを意味するヒメが付けられました。

ホトケノザ シソ目シソ科オドリコソウ属



シソ科の植物は花の形が似ています。2 枚が対になって茎に付く葉の上に、小さな花が立つよう咲く様子が、台座にのる仏様のように見えることから名づけられました。

ちなみに、春の七草の「ホトケノザ」は、キク科の「コオニタビラコ」の別

称で、この植物ではありません。食べたことはありませんが、美味しくはないと思います。

キュウリグサ ムラサキ目ムラサキ科キュウリグサ属



蕾（つぼみ）は、くるくると巻いた茎の先に並んで付き、下から順に青い小さな花を咲かせます。手で茎や葉をもむとキュウリのような香りがするので名づけられました。

別称で「タビラコ」とも呼ばれ、春の七草の「ホトケノザ」の標準和名で

ある「コオニタビラコ」と似た名前が紛らわしいです。

コハコベ ナデシコ目ナデシコ科ハコベ属



単にハコベと呼ばれるものには、コハコベとミドリハコベの2種類があります。茎が紫色を帯びていればコハコベ、緑色だとミドリハコベですが、日陰に生えていたり、若いコハコベは緑色をしているものも多くいます。雄しべの数が3～5だとコハコベ、5～

10だとミドリハコベです。ミドリハコベは在来種で、コハコベは明治以降に入ってきた帰化植物とする図鑑もあります。小さい白い花は、10枚の花びらの」ように見えますが、1枚が2つに根元まで分かれているので、実際は5枚です。この植物も、春の七草の一つです。

アメリカフウロ フウロソウ目フウロソウ科フウロソウ属



昭和中期にアメリカから輸入した牧草に種子が紛れて入り込んだ帰化植物で、煎じて飲むと胃腸に利く薬草にもなるゲンノショウコと同じ仲間のフウロソウ科なので、この名がつけられましたが、本種は薬用にはなりません。

ナズナ アブラナ目アブラナ科ナズナ属



アブラナ科は黄色の花のイメージがありますが、白い花を咲かせます。茎の下の方の蕾（つぼみ）から花が咲きますが、果実の形が、和楽器の三味線を弾く時に使うバチに似ていることから、三味線の音色で、「ぺんぺん草」という別称があります。春の七草のひ

とつで、若い葉は食用にできます。

オオイヌノフグリ



シソ目オオバコ科クワガタソウ属

可愛らしい青色の花で、けっこう早春、1月頃には咲いています。

ムラサキケマン



キンポウゲ目ケシ科キケマン属

日陰を好む野草です。筒状で濃い紫色をしているのが目立ちます。

カラスノエンドウ



マメ目マメ科ソラマメ属

エンドウとありますがソラマメ科で、標準和名はヤハズエンドウ